

09 政経A O英語 解答

川田拓矢 文責

【全訳】

「社会正義は死活に関わる問題である」

挑発的な長文のレポートは、そんなふうには始まっている。この報告書は、健康と開発に関してきわめて該博な専門的見解を有する高官グループの手で八月に発表された。インド生まれの経済学者でありノーベル賞受賞者でもあるアマーティア・センをはじめとする著者たちは、世界保健機構（WHO）によって、不平等と健康という問題を幅広く調査するよう求められた。二年以上にわたる研究ののち彼ら調査団は、『一時代における不均衡を終焉させること』という堂々としたタイトルの報告書を持って、実際行動を求めた。

正確には、どのギャップのことだろうか？ カラカスにおけるスラム住民の寿命は、ケルンやシカゴの裕福な人の寿命よりも全体的に短く、その生活は不潔で粗野であるというのは、別段驚くにはあたらない。しかし、ケルン生まれの人びとやイギリスのグラスゴーの住民の大部分がなぜ、そこから数マイルしか離れていないレンジーというベッドタウンの人びとより短命の傾向があるのか、と調査団は問いかける（図 1 参照）。アメリカのアジア人女性は平均 87 歳まで長生きするのに対して、なぜ黒人女性の寿命はたった 69 歳なのか。その理由は、WHO に属する《健康の社会的決定要因に関する委員会》によると、単に収入の問題ばかりでなく、また単に健康管理システムの能力に帰せられるばかりでもなく、そういった要因に加えて、社会的、政治的、経済的影響力が存在し、それらがほとんど健康に関与しないように見えていながら、やはり結局のところ、「子供が十分な能力を発揮するまで成長し発達して豊かな生活を送ることができるかどうか、あるいは子供の人生が破滅させられるかどうか」を決定するのである、と報告書は謳（うた）っている。

①後者の危険性を減じるために、専門家たちは長々とした希望リストを作成した。彼らは政府に対して、育児と教育に投資することやよりよい労働条件を要求

することによって、とりわけ貧しい国々の婦女子のために日常生活の質を向上させるよう求めている。彼らは、市民社会に対するよりよき管理やより公平な経済政策によって「権力や金や財源の不公平な分配（という問題）に取り組む」必要性を強調している。社会をより公正でより健康な場所にするための彼らの提案における決定的な要因は、（権力の）透明性、すなわち [A 権力] の不平等性への取り組みを前進させるよりよき方策である。この声明は進歩というものに対する新たな規範となる、とこの調査団の議長を務めたロンドン大学のある教授は主張している。

この提案はたしかに広範なものであり、また、穏健な言い方をすれば、一時代における [A 権力] の不平等性をなきものにするという考え方は野心的なものである。だが、これが立派な希望に付きもののもっともらしい言い回しになりはしないだろうか？

少なくとも一読したところ、この報告書を少しばかり疑うに足る十分な理由がある。第一に、著者連は自分たちの考えのオリジナリティを誇張している。つまり、彼らの考えはまったく新しい規範というわけではないということだ。第二に、健康の「社会的決定要因」を強調することによって、彼らは極端に走りすぎてしまったかもしれないし、健康と収入のかなり明らかな関係を控えめに扱ってしまった嫌いがあるということ。そして最後に、権力と金の分配を非難したところで、乏しい医療的財源の分配方法に関する実際上の決定事項に直面している人には大して役には立たないだろうということだ。

しかし、この報告書の思想的偏向や政治的偏見を意識的に看過する人にとっては、その内容には真剣な思索をするに値する事柄がたっぷりあるのである。あるアメリカの頭脳集団はこの声明のことを、不完全ではあるにもかかわらず有益な点はあると言っている。彼らシンクタンク連は、この報告書は長々とした推奨に足る目標の格付けを提供できていないということの特筆している一方、その意見の中で、2000年より以前にかなり流布していた世界的な健康に関する初期の見解の再発見を推進せよという、聞くに値する主張をしている。2000年というのは、いまとはちがうWHO筋の委員会が、論争の余地ある考え方を強く打ち出した年であった。つまりその考え方に従えば、不健康な人びとのせいで個人や国家が悪しき経済業績を生み出すというものであった。

最新の報告書に関して、「逆戻りの現象が見られます」とレビンさんは言っている。換言すると、貧困と不平等が人びとの健康を悪化させるという捉え方【2000年より以前の考え方】を強調する趣が復活しているということである(レビンさんはこれを欠陥として述べているということ)。メキシコの前健康大臣の述べるところによると、「この新しい報告書は、不健康が貧困をもたらすかあるいは貧困が不健康をもたらすかに関する《不毛な議論》への出入り口を提供している」とのことだ。新報告書の他に考えられる欠陥はどうか？ この報告書が、(不平等に照らしたものとしての)収入と健康との関連を控えめに扱っているということ(この著者の見解)に関してはどうだろうか？ 世界銀行の経済学者であるアダム・ワグスタッフは、「健康に関して言えば、収入は『無頓着』なものです。したがって、収入の不平等が慢性的なものでも急速な経済成長は社会全体の健康に恩恵を与える傾向があるのだと私は考えています(収入と健康は関係ないということ)」と語っている(この著者の見解と異なる)。金の好ましい効果の一例として、ワグスタッフは南アフリカの情報を指摘している。南アフリカでは高齢者の健康は彼らが65歳で年金を受領しはじめたのちに増進した、というものである。

しかしながら、ワグスタッフ氏はこの報告書の著者たちが世界的な健康論争に相当の貢献をした功績を讃えている。彼らは、「政策が明確に市民の健康増進を企図しないかぎり経済成長はさらに大きな不公平をもたらす」と言いながら、経済成長の役割を退けていない(と讃えるのである)。

この報告書から引き出される重要項目は、委員会の議長によって提示された寿命の研究という課題であった。彼は、「豊かな社会においてさえ(多くの人が収入を保証されている社会でさえ)、人びとは富だけでは説明しきれないやり方で社会の勾配を昇りながら健康になっていくのだ」と主張している。したがって、彼の関心すなわち報告書の焦点は、[B 金銭とは関係のない]健康の《社会的決定要因》にあるというわけである。

一例を挙げれば、安定しない就職状況、その結果もたらされるストレスは精神的な健康と関係あることが証明されている。ワクチンが無料で万人の手に入る国々でさえ、子供に免疫を与えることが頭痛の種であり、その結果のストレスは精神的な健康と関係してくる(収入と健康の関係がないということ)。この報告

書は、健康増進のチャンスを高めるような多くの改革案を並べ立てている。

国家による健康管理サービスの仕組みも明らかに重要である。この委員会は「一般的な医療保険を備えた社会は、異なった対策を選択できる同等の富を持っている社会よりも、より勝れた健康を享受している」と指摘している。そういった仕組みは、たとえばコスタリカの市民に、多くの無保険のアメリカ人が持っていない利点を与えている。

ここから本論➡しかし、人びとが健康であるか病気であるかは、②いかなる健康大臣の支配力も遠く及ばない要因や政策にも依拠しているのだ。たとえば、健康省はなるほど食事の用意をする前に村人たちに手を洗わせようとするかもしれないが、省の支配できないものである流水がないかぎりそうはいかないのである。

この報告書はたしかに、広くも狭くも、人びとの肉体的な条件を決定する十分な範囲の原因を見つめているのは正当であるが、権力と金の分配における世界的不均衡をひたすら攻撃するのはほとんど無意味のように思われる。そもそも健康大臣というものは、あらゆることを変革することが期待できるわけではない非力な人びとである。

もう一つ、ささやかな批評を加えてみたい。この報告書が健康問題の社会的原因を熟考している中に、個人の選択の余地といったものは語られているだろうか？ 肥満した大食漢は自分が逆境にあることに対して、非情な社会や自由な貿易政策を責めることはまずできない。——にもかかわらず、本報告書は人びとの自己管理責任にはほとんど言及していないのである。

出典: *The Economist* (August 28, 2008): “The price of being well”

【解答】

問題 1 (5点×2)

[A] (c) 部参照

[B] (d) 部参照

※ 言葉のアヤ（畳文）に対する感性を要求される難問。2問とも「金と健康は関係ない」と報告書が主張している点を汲み取ればよいので、ある意味、[A]と[B]は畳語的な問題であると言える。なお power というのは本文 17 行目の、社会的・政治的・経済的（影響）力（social, political, economic forces）をまとめて言い直したものである。

問題 2 (5点+10点)

(1) B

※ 報告書とちがって、著者の見解は、健康と貧困との関係を強調する点に重きを置いている。易問。

(2) In contrast with the view of the report, the author argues that, in fact, the real cause of the difference in (male) life expectancy between countries is a matter of income and health. He attempts to account for it by showing a scandalous gap between rich areas or countries and poor ones gradually.

※ 著者は寿命と豊かさは大いに関係があると見ており、報告書にある種の反駁をするつもりでこの表を掲げている。そこがポイント。いつも言っているとおり、人称と時制に注意して簡単な英文を書くこと。Gradually は段階的に、という意味。

問題 3 (15 点)

政治や経済の貧困から親が労働機会に恵まれず、少ない収入を育児と教育に投資することができないせいで、子供が成長の過程で豊かな生活を阻まれ十分な能力を開発されないまま社会的に挫折した人生を送ること。

(97 字)

※ 直前直後部分の英文を適宜要約できるかどうかの点取り問題。本文の一部分であれ単語熟語を理解しているかどうかを試される一種の英文解釈。選択箇所を見定めるのに時間がかかるかもしれない。抽象性を極力削らないと得点することができない。

問題 4 (5点×3)

- ① 安定しない就職状況からもたらされる労働者のストレス。
- ② 子供が免疫性を獲得できないことに起因する親のストレス。
- ③ 村人に食物の調理前に手を洗わせる政策を施しても、流水がなければ手を洗えないこと。

※ 心的要因と環境要因を並べる。抜き出しの点取り問題。

問題 5 (5点×2)

- ① GDP 上位国はそれに比例して平均寿命も長く、下位国は短いということ。
- ② 図で唯一例外の社会主義国であるキューバは、農業を基本とする国民一丸となった生活が賃金格差を生まず長命に結びついているが、ソ連消滅後経済情勢が悪化し、さらにアメリカの経済封鎖に追い討ちをかけられて経済改革に苦慮している。

※ 第②点に多少の常識が必要であるように思われる。

問題 6 (10 点 + 25 点) 【超難】

- (1) 国民が高齢化するにつれて高齢者の罹患率も高まり（医療を受ける側の事情）、病人の収入の多寡にかかわらず富の分配を図るための国民健康保険を制度的に推し進めねばならない国家の医療費がかさんでいく（医療サービスを提供する側の事情）。

※ これ以上書きようがない。字数制限がないのはそのためだろう。（ ）の部分は書かないこと。なお、現在は老人とか高齢者という表現は厳禁とされ、くどいようでも高齢者と書かなければいけないことになっている。

- (2) 高齢者の罹患率を極力減らすための予防対策として、国家による健康管理サービスを充実させることはもちろん、国家自らが高齢者本人による自己管理責任を唱道する。また、高齢者医療費へ充当するために消費税をはじめとする諸税を増やしてあまねく国民負担に訴える。さらに高齢者の人口比率を減じるために少子化の勢いをくい止める方策を講じて将来の労働力を創生し、医療費負担者を増加させなければならない。

(192 字)

※ 難物である。かなりの深い思索、それも国家事情を踏まえた論理的思考が要求される。世情観察の目が鋭ければ、おのずと見えてくるテーマではあるが、若い受験生には困難な問題だっただろう。

【総括】

世界的に「医療と貧困（不況）」との関係が話題となっているいま、タイムリーな出題と言えるかもしれない。いかんせん、**but** や **however** が多く、読みづらい文章である。だが早稲田らしく、前提知識をほとんど必要としない穏やかな問題の部類に入る。

問題 6 はかなりの社会観察力が要求され、誇張ではなく、AO 受験生の一人も解答できなかったものと思われる。アメリカの医療費の増大による患者の自己破産や、その日本への波及に対処する政治的課題の問いかけは、あらかじめ予測されたところだったが、今年度は出題されなかった。

総じて畳語や抜き出しの問題が多く、また表の読み取りもさほど複雑でなかったせいで、合格点は例年よりも 10% 程度上昇して、45～50 点くらいではないか。